

User Report

ユーザーレポート

— 0の証明 —

■ 個人

離島の足、軽トラにアルコールインターロックを装着。 家族と地域に安心をもたらすツール。

アルコール・インターロック装置を個人のクルマに装着されたご家族にお話を伺いました。装着を依頼されたのは、離島に暮らす 65 歳の男性とご家族です。同じように、家族や身近な人の飲酒問題に悩みを持つ方の参考になればと、導入に至るまでの経緯と葛藤を赤裸々に語ってくださいました。

ご利用機器

カメラ付き
アルコールインターロック装置

ALC-ZERO II



飲酒運転事故をきっかけに、 アルコールインターロック装着へ

離島に暮らす B さん（65 歳）は、1年ほど前に飲酒運転による事故を起こしました。自宅近くの溝に落ちるという単独事故で、幸い大事には至りませんでしたが、飲酒が原因であることに、家族は深刻な危機感を抱きました。特に島を離れて暮らす娘さんは強い不安を感じ、早急な対策を模索する中で、東海電子の相談窓口にとどり着きました。そこから専門スタッフによる丁寧なヒアリングを経て、B さんの日常の足である軽トラックにアルコールインターロックの設置が決まりました。導入がスムーズに進んだのは、娘さんの切実な願いだけでなく、実は B さん自身も飲酒運転の危険性を認識していたからです。この決断が、B さんと家族にとって、安全で安心な生活を取り戻すための大きな一歩となりました。



※文章、写真の無断転載や抜粋、加工は固くお断りいたします。

「慣れれば問題ない」日常的な運用

東海電子のアルコールインターロック「ALC-ZERO II」は、呼気吹き込み式アルコール検知器で、一般的な車両であれば後付けが可能です。アルコールを検知するとエンジンがかからない仕組みのため、飲酒運転を物理的に阻止します。呼気を測定するための吹き込みには一定量の圧が必要です。そのため利用者が高齢者である場合は、デモ機で吹き込み方を試していただくこともあります。B さんの場合も最初は少し難しく感じたそうですが「慣れれば問題ない」とのことで、今は無理なく吹き込みを行っています。B さんの車の運転は 1 日に 1 回程度、畑仕事や買い物で使用しています。インターロックの測定時において、周囲の視線が気になる人も少なからずいますが、B さんが測定する環境は人通りが少ないため、特に人目を気にしたことはないそうです。



データが語る真実

「ALC-ZERO II」は、測定結果を自動で保存します。本人とご家族の同意のもと、B さんの測定結果を振り返ってみると、アルコールが検知されてエンジンが始動しなかった記録が散見されました。本人談としては、「最近はお酒を飲んでいない。」飲むとしても、晩酌でたしなむ程度であり、チューハイやビール、日本酒を合わせて 500ml 程とのこと。しかし、測定データには、たびたび朝 10 時頃から夕方 16 時頃までにアルコールを検知し、エンジンが始動しない記録が残されています。これは、日中の主な運転時間帯にもアルコールが体内に残っていることを示しています。

隠れ飲酒ともいえる兆候がみられる中で、もうひとつ、測定に影響を及ぼす点がありました。それはストロング系のチューハイを好んで飲んでいるということです。ストロング系は、酔いが早く回るため“危険なお酒”と言われています。そのためアルコール濃度の低いお酒を選ぶこと、また飲む量を把握する必要性をお伝えしました。

User Report

ユーザーレポート

— 0の証明 —

■ 個人

家族と地域社会に安心をもたらす機器

測定データはご本人の同意の上、離れて暮らす娘さんとも共有しています。Bさんの実際の飲酒状況と、それに伴うリスクを客観的に示す情報が、ご家族のサポートには欠かせないものだからです。Bさんはアルコール依存症に関する専門的な治療は受けていません。しかし、一般的に大量飲酒による認知機能の低下が指摘されていることから、より包括的な健康管理の必要性が感じられました。その上で、インターロックの測定結果が今後の飲酒習慣の改善に役立つように繋げていくことも私たちの使命だと考えています。Bさんの事例は、アルコールインターロックが単なる機器ではなく、個人の安全意識を高め、ご家族や地域社会に安心をもたらすツールであることを実証しています。今後もBさんご一家が、離島の生活になくはならない車を、安全に利用できることを願っています。



「装置がないと不安」に変わった意識

飲酒のコントロールに課題は残るものの、アルコールインターロックの導入は着実にBさんの意識に変化をもたらしています。導入前は自由に運転ができなくなる不安を持っていましたが、今では「残酒のリスクを考えると、装置がないと不安」と思うようになり、インターロックが心の支えであり、頼みの綱となっています。その意識の変化と、実際に飲酒運転を防いでいることが、離れて暮らす娘さんの安心にも繋がっています。また、近隣の方々がインターロックを認識し、好意的に受け止めていることもBさん家族にとって大きな支えとなっています。地域全体で見守り、飲酒問題を抱える家族を孤立させない意識が重要です。

取材ご協力

家族を守る方法の手段として、アルコール・インターロックを導入されたBさんご一家



編集後記

取材当日、機器の確認を行うために、Bさんにインターロックで測定をしていただきました。手順がとてもスムーズで、生活に完全に定着していることがうかがえました。しかし、測定結果はアルコールを検知し、エンジンがかかりません。ご本人曰く「お酒は飲んでいない」とのこと、数値検出の原因は車内にある何かが反応している可能性を指摘されます。そこで、取材班が測定を行ってみると、数値は検出されません。さらに過去のデータと照らし合わせた聞き取りで、取材日も午前中から飲酒していたことが判明しました。アルコールインターロックが、飲酒運転を食い止める現場に直面し、その確かな効果を実感すると同時に、ご家族が心を痛めている問題飲酒の解決には至っていないことを痛感しました。根本解決には、関連機関が連携を図り、相談・治療・回復支援といった体制の整備が欠かせません。私たちは今後もインターロックの社会実装の必要性とともに、包括的なサポートの重要性を広めていきたいと思います。

アルコール・インターロック
社会実装と個人装着を推進する

特設サイト

アルコール・インターロック.com
～飲酒運転加害者をゼロに～

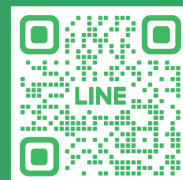
東海電子WEBサイト
【アルコール・インターロック.com】
<https://alcohol-interlock.com/>



導入事例動画
【あるご家族のアルコールインターロック装着ものがたり】
<https://youtu.be/CcXm5jBgeTQ>

大切な人の飲酒運転で
悩まれていたら…

@700xyfip



いつでも LINE でご相談ください!